

Digital transformation

DX 推進リーダー 育成研修

第2期生募集中：2023年7月7日～10月27日

{ 理論と事例で学ぶ
デジタル変革推進リーダー
人材育成プログラム }

経営アカデミー「DX推進リーダー育成研修」

Japan Productivity Center

経営アカデミーは公益財団法人日本生産性本部が
1965年に創設したビジネススクールです

「DX推進リーダー育成研修」は2022年11月に開講しました
第1期は9社よりご参加いただいています

詳しくは、<https://www.k-academy.jp/dxleader/>

監修＆プログラムコーディネータ

Japan Productivity Center

立本 博文

筑波大学大学院ビジネスサイエンス系 教授

1998年東京大学経済学部卒。東京大学、MIT客員研究員等を経て、
2012年より筑波大学にて教鞭を取り、現在に至る。

専門：経営戦略論、技術経営論、国際経営論。

研究領域：オープン標準戦略、プラットフォーム戦略他

参考：『企業成長を実現するデジタル投資』

先行版(無料)ダウンロード <https://note.com/ttmthf/n/n452d3a3da2b4>

キンドル版 https://www.amazon.co.jp/dp/B0BG7K77CW/ref=docs-os-doi_0

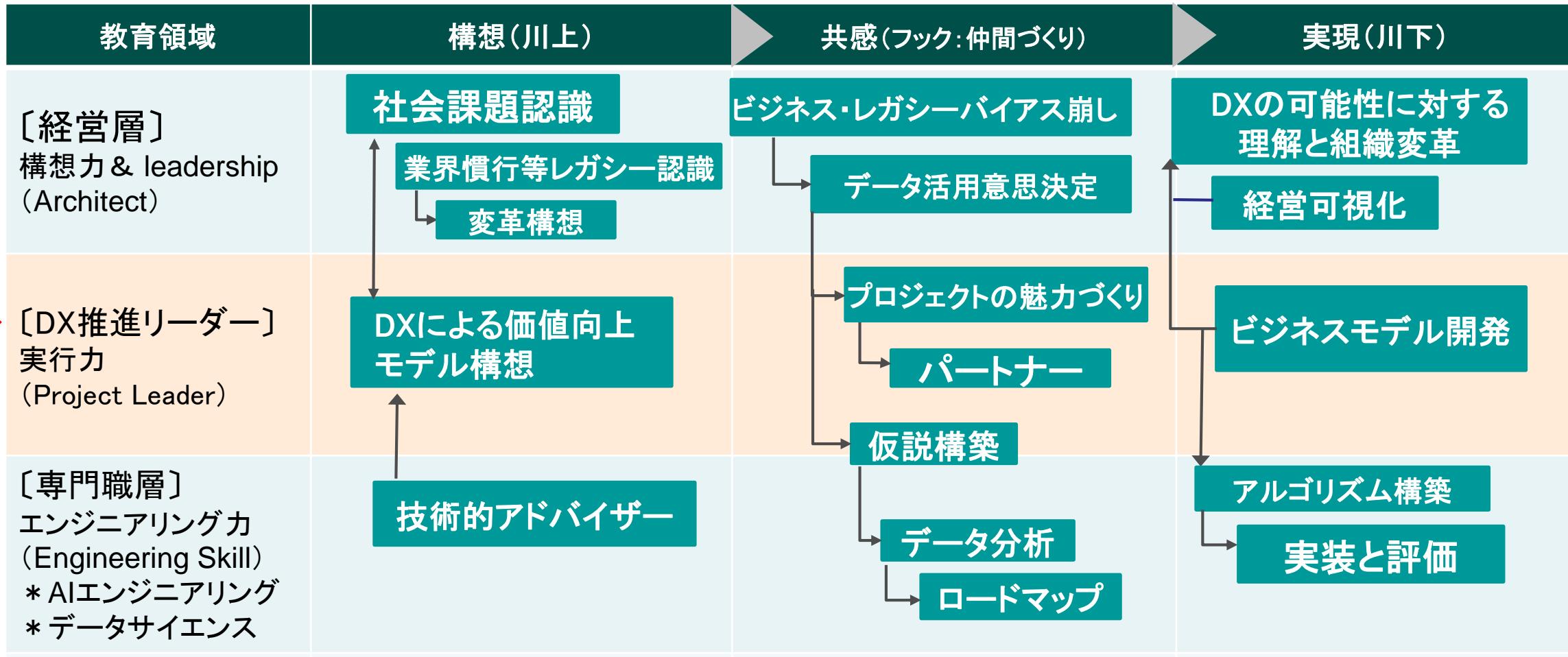
筑波大学大学院ビジネスサイエンス系ご案内

<https://www.gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp/program/message.html>



DX推進リーダーに期待される役割

Japan Productivity Center



成功要件: 組織変革・事業変革(Transformation)の目的、目標が明確か？

DX推進リーダー育成研修のねらい

Japan Productivity Center

DX推進リーダーは、

- ①経営層の支持を得て
- ②生産部門、事業部門、販売部門等及び
- ③パートナー企業と共に
- ④データ&デジタル技術を活用した
- ⑤生産性改善、新たな顧客価値創造を行う
「要の役割」を担っています。

「DX推進リーダー育成研修」

Japan Productivity Center

本研修の目的

データ&デジタル技術を活用した事業変革、組織変革を進めるDX推進リーダーを支援します

そのため、

1. DX推進リーダーが担う**自社課題を設定**いただきます
2. DXを支える**理論と実践知**を交えた講義を受講します

第1期(2022年11月4日～2023年3月3日)参加者

Japan Productivity Center

1. 参加者所属企業

金融、保険、ITベンダー、
メーカー(飲料、医療機器、測定器、食品、セメント)

2. 所属部署

DX推進部、DX戦略部、業務革新推進室、営業戦略部、
技術研究所

3. 役職

主任、リーダー、課長、部長、室長、社長

第1期生の「自社課題」概要(抜粋)

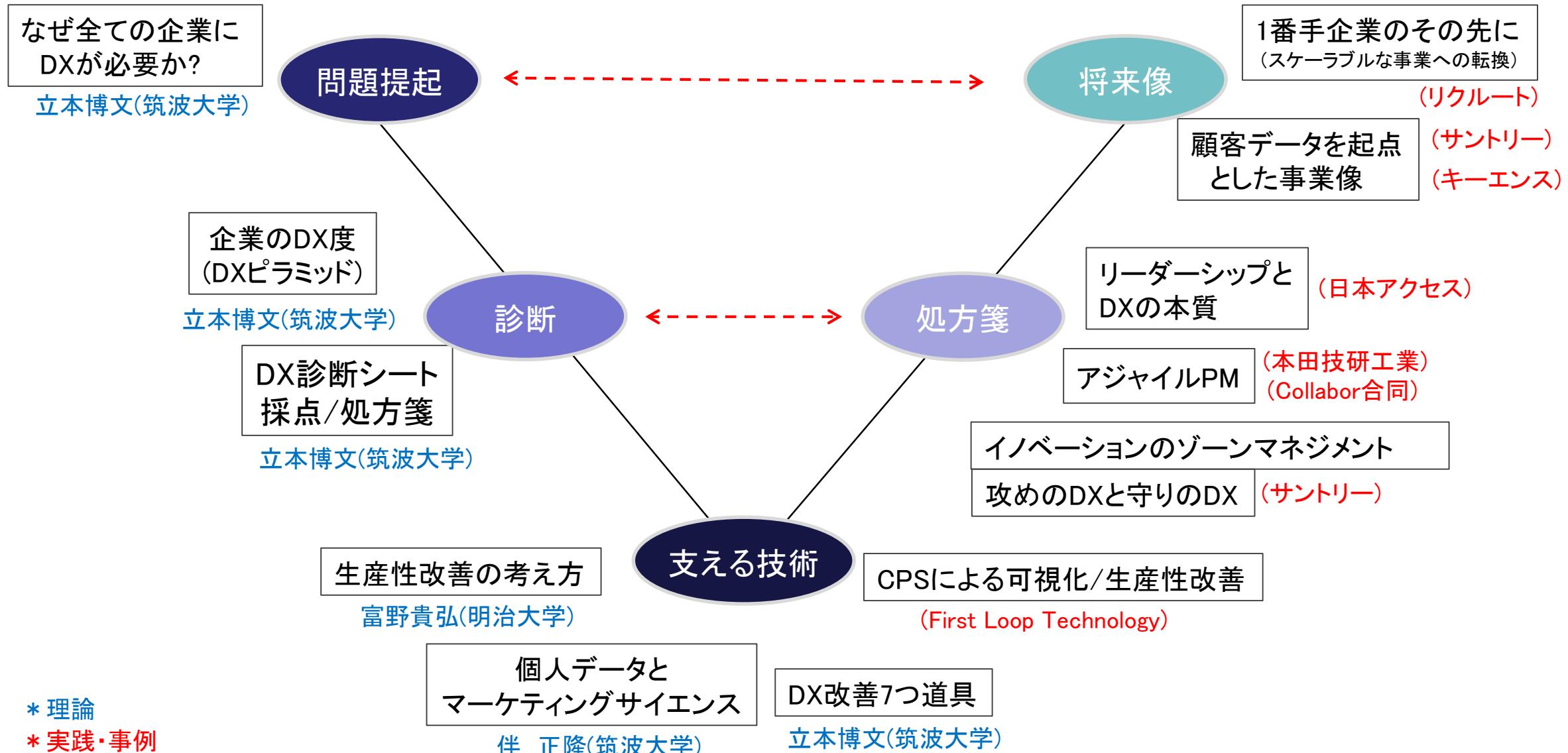
Japan Productivity Center

企業属性	自社課題テーマ	問題認識	実現したいこと
飲料	販売～需給体制の最適化	営業部門の販売見込みが結果として在庫、欠品を頻発させ機会ロス、コスト増が発生	需要予測から最適製造、販売計画の流れを構築する
医療機器	全社情報利活用プラットフォームの構築	コミュニケーションや情報保管の手段が複数存在し、業務時間の約6割が「探す」ことに費やされている	情報を一元管理できる全社情報利活用プラットフォームの構築
各種測定器	社員意識の改革	B I ツールは入れたけれど…。社員の意識が変わらなければ宝の持ち腐れ	まずは活動の見える化、進捗の見える化により意識変革を促す
保険	顧客目線からの統合型金融サービスの実現	顧客として対象人数の小さいグループ内での収益の約35%を占めている。外販で如何に顧客を広げていくかが課題	業界トップクラスの「総合保険代理店」、その先の統合型金融サービス
金融	営業スキル向上～業務効率化等の実現へ	顧客ニーズが多様化しているがこれまで属人的な営業をしてきたため人材もデータも未整備	データを活用した営業への転換
金融	自社ビジネスモデルの持続可能性向上に向けて	減点主義的な組織風土が残っており、既存ビジネスを超えていく発想ができていない	既存事業領域にとらわれない、多様なビジネスが芽吹く土壤(社内文化)の創出
食品	IT人財不足 × 開発工数の増加により DXが進まない	DX推進部が設置されたが、事業部門からは「何かやってくれるんでしょ」と言われ自ら課題設定し改革していく意欲が伝わってこない	規模の大きい案件に対処可能なマネジメント層の充実
食品	データドリブン経営に向けて	BIツールはあるが使いにくい。全社的にデータ分析スキルが不足している	データから新しい開発(事業)の方向性を見出し続ける状態を作り上げること

第1期「DX推進リーダー育成研修」の講義・討議

理論に学び、事例でイメージをつくる ⇒ 自社変革イメージに結びつける

Japan Productivity Center

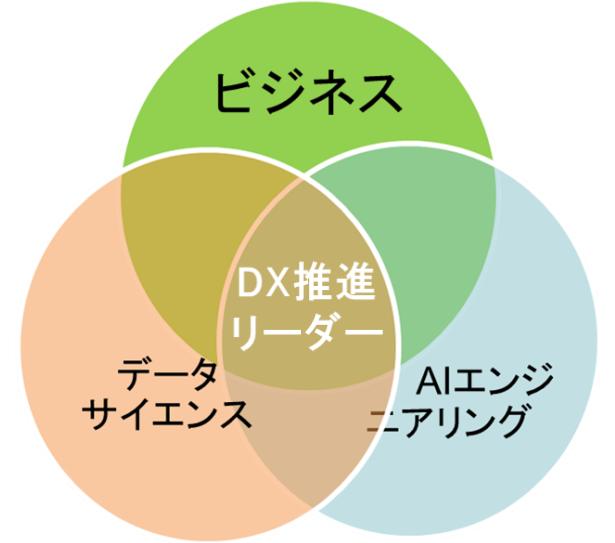


* 理論

* 実践・事例

日程(前半)

Japan Productivity Center

回	日時	テーマ	概要
1	7月7日 (金) 16:00-20:30	16:00-16:30 オリエンテーション 16:30-18:20 自己紹介及び課題発表 開講講義: I「将来像(あるべき姿)を知る」(理論編) I -1. 「問題提起: 何故全ての企業にDXが必要か ~守りのDX、攻めのDX」 18:30-20:00 開講講義 20:00-20:30 交流会	
2	7月14日 (金) 18:20-20:50	V「他社・他業界から学ぶ」(理論編) V-1. 「DX度とその診断 ~DXを推進する組織能力とDXプロジェクトレベル」	
3	7月21日 (金) 18:20-20:30	I「将来像(あるべき姿)を知る」(実践編) I -2. 「データを活用した営業変革 ~データ活用推進の実務と苦労話」	
4	7月28日 (金) 18:20-20:50	I「将来像(あるべき姿)を知る」(実践編) I -3. 「DXによる企業変革を推進する組織体制とは ~現場と経営をつなぐリーダーシップ」	
5	8月4日 (金) 18:20-20:50	V「他社・他業界から学ぶ」 V-2. 「課題共有 ~異業種による第三者目線からの相互コメント」	3機能をつなぐ”翻訳者”としてのDX推進リーダーの役割とビジネス変革リーダーとしての活動のリアル
6	8月18日 (金) 18:20-20:50	II「将来像に到達するための手法を知る」(実践編) II-1. 「営業の飛躍的な改善 ~あえてDXと呼ばない現場のDX」	「データ活用改革による営業生産性の大幅な改善」 ・行動トランザクションデータの活用 ・データを基に意思決定する組織への変革
7	8月25日 (金) 18:20-20:50	III「知識ベースを構築する」(理論編) III-1. 「データ&デジタル技術で取組む生産性革新の進め方」	「製販連携と開発連携の視点からの生産性革新」 ・DX導入を試みる際に把握すべき本質的な問題は何か
8	9月1日 (金) 18:20-20:50	II「将来像に到達するための手法を知る」(実践編) II-2. 「アジャイル型開発プロジェクト ~DXプロジェクトにおける発注側と受注側によるアジャイル開発の実際」	「アジャイル開発プロジェクト」 ・不確実性の高いプロジェクトはアジャイル型で ・圧倒的に密度の高いコミュニケーションが必要

日程(後半)

Japan Productivity Center

回	日時	テーマ	概要
9	9月8日 (金) 18:20-20:50	I「将来像(あるべき姿)を知る」(実践編) I-4.「攻めのDX ~試行錯誤の連続から今日まで、デジタル経営変革の実際」	「攻めのDXの実際」 ・古い基盤システムとの戦い、IT人材の採用と定着、現場への実装など試行錯誤の連続による現実的課題
10	9月15日 (金) 18:20-20:50	II「将来像に到達するための手法を知る」(理論編) II-3.「DX改善7つ道具 ~生産性改善の為のDX改善ツール」	「DX改善7つ道具」 ・QC7つ道具を、生産性改善と現代的技法という2つの観点から大きく見直した現場で使う教育ツール
11	9月22日 (金) 18:20-20:50	II「将来像に到達するための手法を知る」(実践編) II-4.「Cyber Physical Systemによる可視化、生産性改善」	「サイバーとフィジカルでの情報連携サイクル」 ・データ収集(IoT)⇒データ蓄積(クラウド)⇒分析・最適化(AI)⇒現場活用(FA化・自動制御)⇒データ収集⇒
12	9月29日 (金) 18:20-20:50	II「将来像に到達するための手法を知る」(理論編) II-5.「顧客データの価値化 ~ベイズ統計学の直感的理解とID-POSを用いた分析による顧客データの価値化」	「ID-POSデータを事例に」 ・顧客個々の性質を理解するに、個々には不足する情報を全体の情報で補う解析手法
13	10月6日 (金) 18:20-20:50	V「他社・他業界から学ぶ」 V-3.「課題共有 ~異業種による第三者目線からの相互コメント」	「気づきの連鎖」 ・参加者相互コメントで、社内の議論では出てこない指摘、発想が大いなる刺激に
14	10月13日 (金) 18:20-20:50	II「将来像に到達するための手法を知る」(実践編) II-6.「製造業のDX導入～進むも地獄、進まぬも地獄」	「BtoB企業のDX導入」 ・顧客企業がグローバルにネットワーク化を進める中、必須になった工程のIoT化に全社員が知恵出し
15	10月20日(金) 18:20-20:50	IV.「DX推進経営者のリーダーシップ」(実践編) IV-1.「現場リーダーのリーダーシップに対する経営リーダーのリーダーシップの役割」	「DXを進めるためのSCM」 ・成功事例を積み重ねながらパートナー企業との連携を深めていくには経営者のリーダーシップが不可欠
16	10月27日(金) 13:00-19:00	V.「他社・他業界から学ぶ」 V-4.「DX自社課題&DX構想発表」／終講式	自社課題を次のステップに進めるための構想と行動計画を発表

I データ＆デジタル技術による事業変革、組織変革プロジェクト支援

Japan Productivity Center

1. 自社課題の設定

目的：修了後に自社でDXを推進するためにDXプロジェクトの企画を磨き上げる

2. 自社課題検討支援

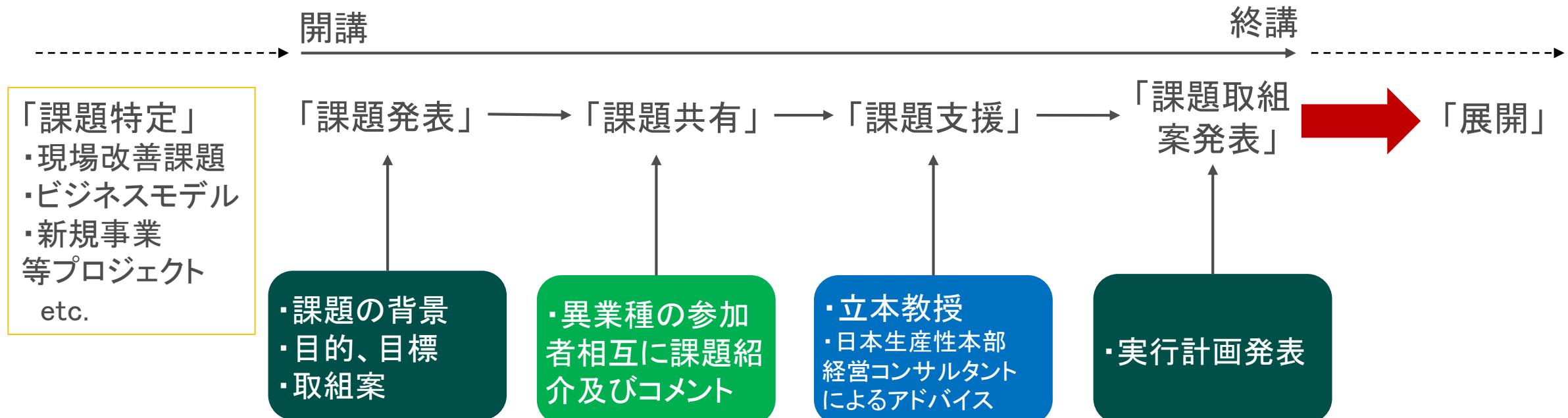
コーディネーター及び日本生産性本部コンサルタントが支援します

自社課題は下記要領で事前に準備いただきます

- ①. 「テーマ（課題）とそのテーマに取り組む背景」（背景は事実、データ）
- ②. 「実現したいことをより具体的に」（目的、目標）
- ③. 「実現するための課題」（制約条件、ブレイクスルーが必要と考えることなど）

各社の変革ストーリーを支援

Japan Productivity Center



- (1) NDAは結びません。意見交換可能な範囲でご紹介ください
- (2) 開講時にパワーポイント4枚以内で課題の背景等を紹介いただきます
- (3) 修了後、社内でプロジェクトを展開しやすくできるよう複数名での参加をお薦めします
- (4) 参加者の上司1名は講義を聴講し伴走されることをお薦めします
- (5) 1月～2月の間に、ご希望により1社1時間以内で日本生産性本部経営コンサルタントがご相談をお受けいたします
- (6) 修了後、社内でプロジェクト展開するにあたり、支援をご希望される場合は別料金にてお受けさせていただきます

「実施要領」

1. 参加いただきたい方

- (1)部署、役職に関わらずDX推進に関わるリーダー、メンバーが対象です
- (2)デジタル技術やデータを生産性改善、新規事業創造、ビジネスモデル改革につなげる役割を担っている方
- (3)事業や業務に詳しい人材とデジタル技術に詳しい人材をつなぐ役割を担っている方
- (4)経営層、事業、エンジニアをつなぐ役割を担っている方
- (5)生産性改善や顧客価値創造につながる課題を検討している方

2. 参加費について

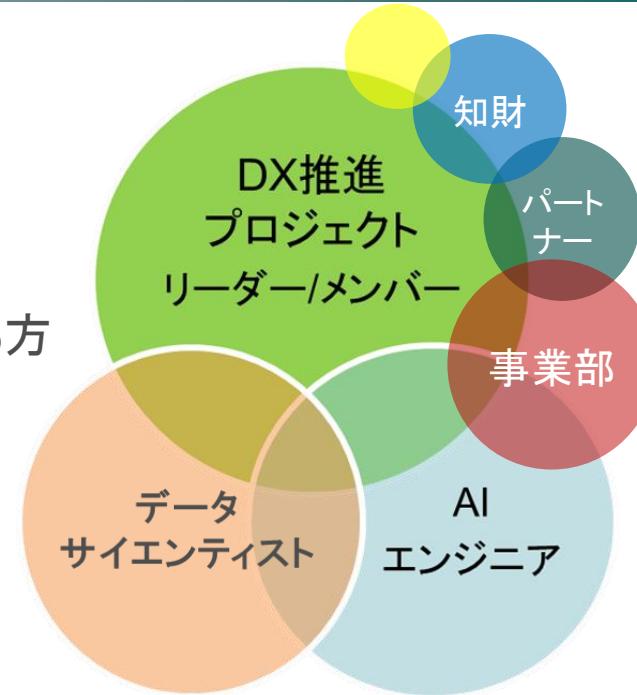
(消費税込み、参加者1人あたり参加費)

1社参加人数	日本生産性本部 賛助会員	非賛助会員(一般)
1名参加の場合	935,000円	990,000円
2名参加の場合	770,000円	880,000円
3名参加の場合	660,000円	770,000円

(1)上記は、いずれも参加1人当たりの費用です。(最大1社5名まで)

(2)1社、1プロジェクトでの参加をお勧めします。

(3)募集:20名様



お問合せ、申込先

1. 実施形態

- ・2023年7月7日(金)～2023年10月27日、全16回予定
- ・時間帯: 18:20～20:50 (開講日及び終講日を除く)
- ・集合(経営アカデミー)、一部オンライン(Zoom)参加可

2. お申込み先

経営アカデミーホームページよりお申込みください

経営アカデミー: <https://www.k-academy.jp/dxleader/>

3. お問合せ先

公財)日本生産性本部 経営アカデミー

〒100-0005東京都千代田区丸の内1-6-2

新丸の内センタービル6階

(JR東京駅丸の内北口徒歩3分OAZO内)

メール: academy_info@jpc-net.jp

電話: 03-5221-8455

